

シカ生息動向等調査結果

① 越冬数センサス調査

知床岬：2007年3月10日の航空調査では、知床岬の台地草原上に518頭を確認。2005年から3年続けてほぼ同数となっている(図1)。2006年12月9日の調査では285頭(前回シカWGで報告済み)。

ルサ-相泊：2006年12月から2007年3月末までに11回(調査距離8km)、道路からのカウント調査を行い、最少26頭(12月)、最多290頭(3月)を得た。時間帯では午後から夜間が最多となった。

真鯉：2007年1月中旬から3月中旬までに7回(三段の滝～金山川間;8.5km)、道路からのカウントは最少76頭(1月)、最多796頭(3月)。調査はいずれも午後(知床財団独自調査)。

② 餌付け調査

ルサ-相泊越冬地の昆布浜において、道路近くの林内(広い疎林のササ地)にコーンとビートパルプを2007年2月から3月にかけて39日間配置したが、シカの餌付きは確認できなかった。今冬の利用可能なエサ資源の状況、エサ配置の時期と場所(近くの工事)等に要因ありと思われた。

③ 全数調査

昆布浜付近の餌付け調査地周辺(0.29 km²)で2回、追い出しによる全数調査を行い、35頭(1月下旬)、50頭(2月上旬)を数えた。同一区間の道路カウントは最大19頭であり、少なくともこの区間では道路から見える数の2.5倍が越冬していることになる(最大発見率0.38)。

④ 自然死状況調査

2007年5月の調査では、知床岬、ルシャともに死体の発見なし。1999年の調査開始以来初めて(図1)。真鯉地区国道沿いでのシカの死亡は自然死と思われるものがわずかに6頭。ただし、ウトロ東の台地上森林部や幌別-岩尾別台地の林内では日数の経過したシカ死体が散見されている。

羅臼側のルサ-相泊間でも、今季シカの自然死個体の確認なし。

⑤ ライトセンサス調査

2007年4月30日～5月5日の間に5夜行ったカウント調査の結果、幌別コースでは平均92.4頭(68-114)、岩尾別コースでは平均54.6頭(31-83)を確認。キロ当たり発見数では春の値として平年並みだった(図2、3)。百メス比も幌別で26.0、岩尾別で10.6と大きな変化はなかったが(図4、5)、オスの比率が高く(幌別13.2%、岩尾別32.1%)、今冬の生存率の高さを反映していた。

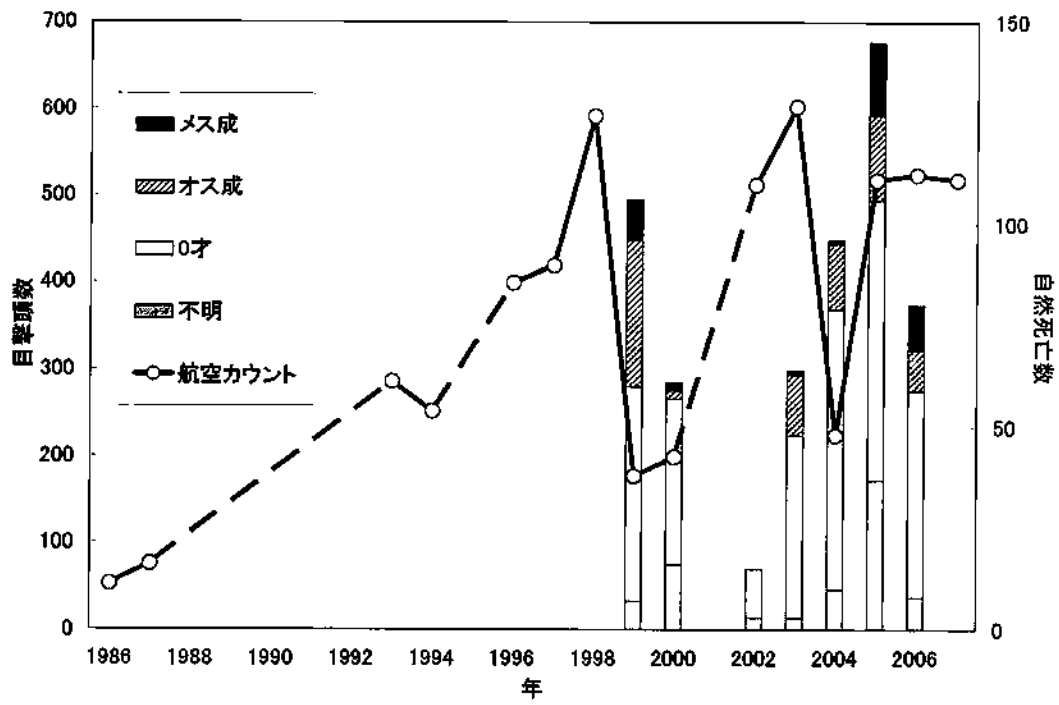


図1. 知床岬におけるシカ越冬数(実線、左軸)と春の自然死亡数(棒、右軸)。越冬数の破線部はデータのない期間をつないだもの。自然死亡数の2001年はデータなし。

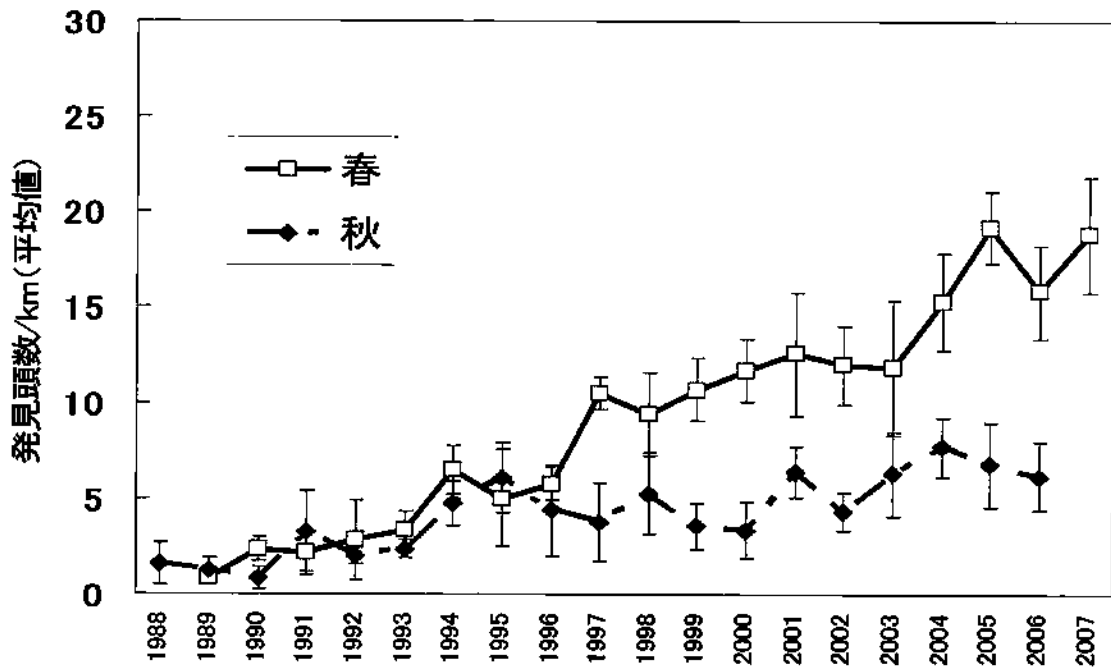


図2. 幌別地区におけるライトセンサスによるシカ発見頭数。

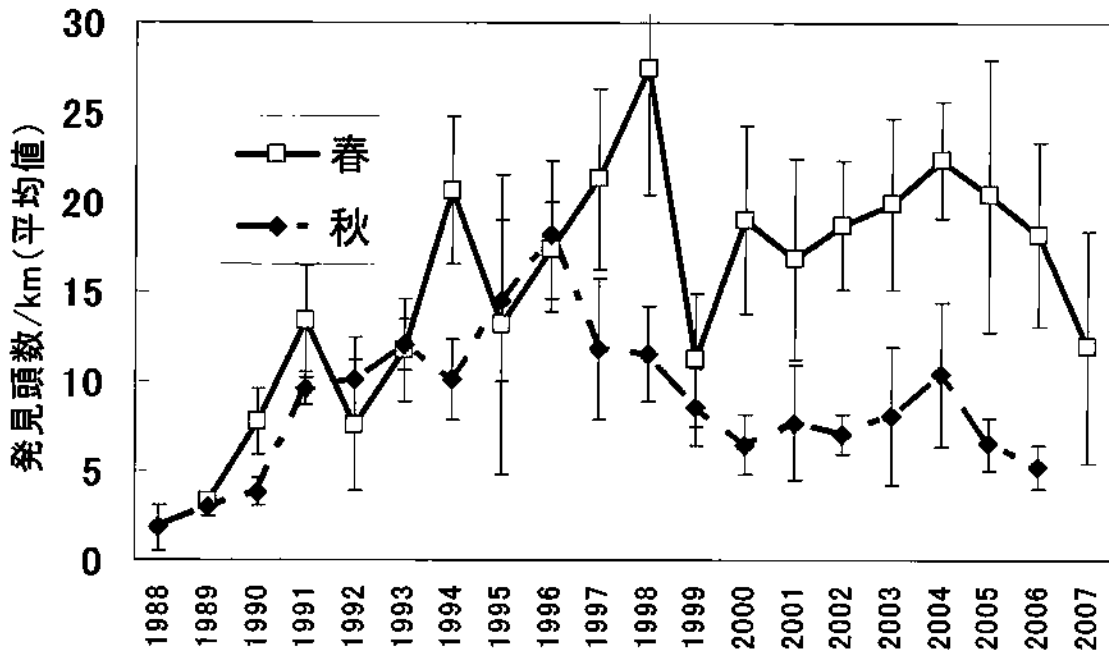


図3. 岩尾別地区におけるライトセンサスによるシカ発見頭数。

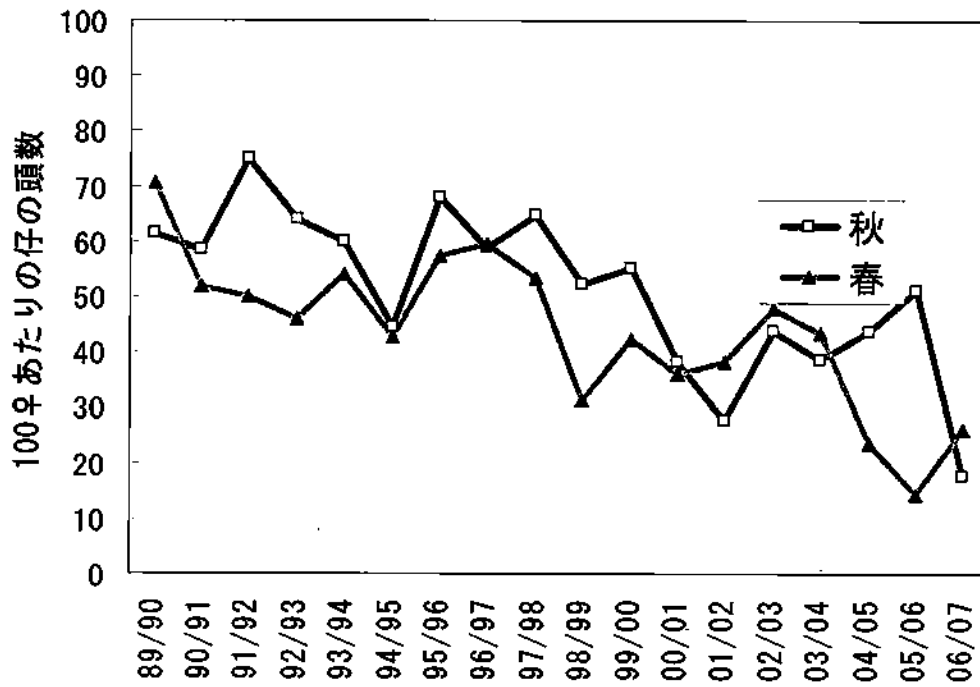


図 4. 幌別地区ライトセンサスにおける百メス比(メス 100 頭に対する子の数)。

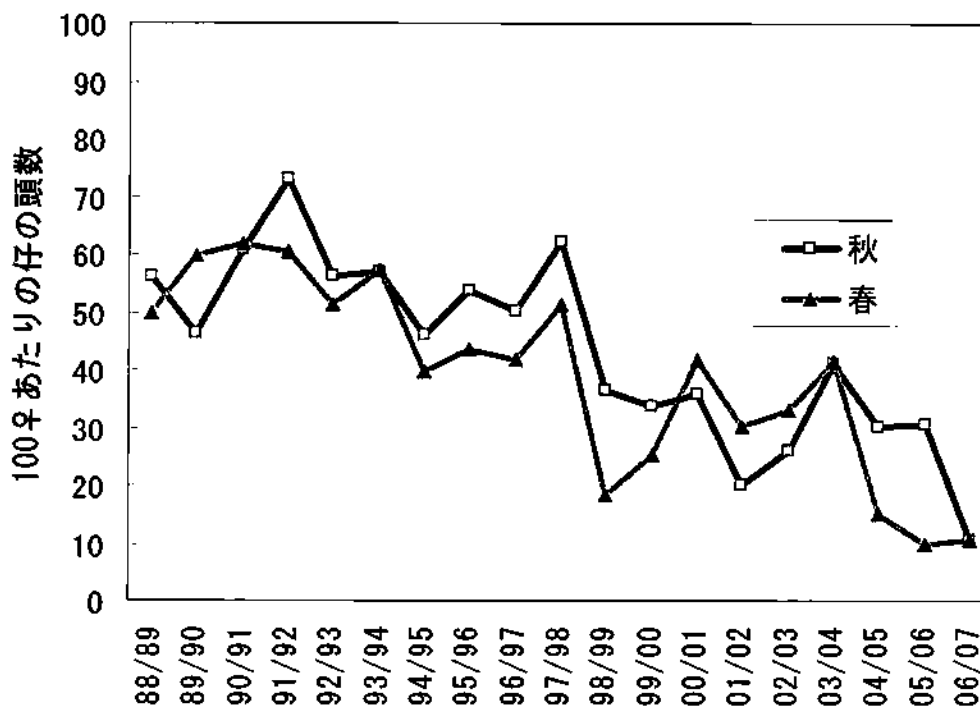


図 5. 岩尾別地区ライトセンサスにおける百メス比。